



アジア刑政通信

ASIA CRIME PREVENTION FOUNDATION

NO. 61
2018
8/1

編集／発行人 公益財団法人 アジア刑政財団
〒196-0035 東京都昭島市もくせいの杜2-1-18
国際法務総合センター アシ研・法務研棟2階 ☎ 042-543-7725

2020 京都コンGRES 4月20~27日に開催



国連ウィーン本部で敷田稔氏を偲ぶ会

国連ウィーン本部で開催した ACPF 前理事長敷田稔記念イベント（2018年5月16日）の記念撮影＝6～7頁に詳報。

前列中央に敷田氏の本を持つエドワルド・ベテレ元UN薬物犯罪事務所条約局長と山下輝年 ACPF 事務局長。ベテレ氏から向かって左2人目に千田恵介アジ研所長（当時、現高松地検検事正）、ヨランタ・



国連ビル前で日の丸がはためいていた

レド ACPF 国連ウィーン駐在代表、石原香代アジ研次長、末永沢子 ACPF 会員。左端に西美友加 ACPF 会員。山下事務局長から向かって右2人目に金振煥韓国刑事政策研究院長。右端に吉田弘之 ACPF 事業部長。後列中央ベテレ氏の後ろにイボン・ダンデュランド・カナダ刑事改革刑事政策センター・シニアアソシエイト、右にマッティ・ヨツツェン国連ヨーロッパ犯罪防止研修所前所長。



国連ビル1階ロンドラの「鳳凰来儀」

巻頭言 素晴らしきわが保護司の制度

会長 堺屋 太一

◎ 「安心・安全・清潔・正確な国」

今日の日本は、世界でも最も「安心で安全で清潔で正確な国」である。そのことは、この会報 56 号でも書いた。日本の治安の良さは抜群、夜間女性が街を歩いても襲われることはないし、家屋に浸入されて盗難や危害を受けることもきわめて珍しい。

「安全」とは、国が平和で不測の事故が少ないことだ。自動車交通が普及しはじめた 1970 年代には、交通事故による死者が年間 1 万 6 千人にも達し、「交通戦争」などとも

いわれたこともあった。

だがその後、車両の改善と道路施設の改良、交通良識の普及などで事故死亡数は激減、2017 年には 3694 人にまで減少した。

交通事故以外の事故死も激減、特に作業中の事故は大いに減少した。

「清潔」とは、物理的な清潔さだけではなく、汚職や職権乱用の少なさをも含めて、日本はきわめて清潔な国である。日本でも「ロッキード事件」が生じた 1970 年代中頃までは汚職事件の検挙者は 1000 人前後もいた。ところが 2016 年では 74 人でした。それもみな微罪である。

目次

巻頭言 素晴らしきわが保護司の制度 会長 堺屋 太一	2～3
「犯罪なき繁栄」を目指して活動する ACPF	4～13
・「安全な国 日本」2018 年版発行／日本記者クラブで堺屋会長が記者会見 ／成田空港で配布サービスを開始／各地の講演会で資料に	
・国連ウィーン本部で敷田稔前理事長のメモリアルイベント開催	
・第 5 回タイセミナー大成功、本部・支部会員 20 人が参加	
・フィリピン CPPAP との連携協力を協議	
トピックス	14～15
敷田賞にレド氏。10 月 25 日明治記念館で贈賞式／タイは大変な和食ブーム ／国際刑事裁判所の判事に赤根智子さん／堺屋会長の「美術愛住館」オープン	
アジ研ニュース	
第 23 代所長に瀬戸毅（せとたけし）さん	16～17
支部だより 期成会／横浜／大阪／広島／名古屋／東京みのる会／札幌／埼玉	…18～32
本部だより 2019 海外視察ツアー／評議員会・理事会を同時開催／副理事長就任の挨拶 北田幹直／刑事政策公開講演会を開催／支部実務者会議を開催／マレーシア警 視総監が警視総監を訪問	…33～36
役員名簿、支部一覧、海外協力団体一覧▽編集後記	…36～38
入会申込書	…39
裏表紙 2019 年国際貢献カレンダー	



2018年版「安全な国 日本」

「正確」とは、公共交通機関の運行から公私の行催事や営業時間まで、実に正確に守られている。このお蔭でこの国で生活する者は「予定通りの生活」を送れる。この点も、終

戦直後の日本に比べれば格段の進歩である。

◎みんなで守ったこの国の秩序

日本が、これほどに「安心・安全・清潔・正確」になったのは全国民の合意といえる。

終戦直後の混乱時代はさて置くとして、日本は古くから治安の良い国だった。今日、江戸時代を舞台にした時代劇は、俗に「チャンバラ」と呼ばれ、必ず白刃の斬り合いが入る。

しかし、現実の江戸時代はきわめて治安良好、殺人事件などは滅多になかった。多くの都市では、見回りの岡っ引きはごく少数。例えば人口35万人を数えたという大坂の街でも東西と天満奉行所の同心は合計600人。これで治安ばかりか、街の行政をも担当していたのだから凄い。

もちろん、大坂にも大坂城代や諸藩蔵屋敷があり、それぞれに武士が常駐してはいたが、これはいわば大使館の駐在員、町の行政治安には原則として関与しなかった。

人口35万人、諸国の金銀財宝と大量の商品の集散する大都市の治安を守ったのは、主として住民の自治だった。

◎取締りよりも善導

江戸時代から、日本はきわめて治安の良い国だった。それが「士農工商」の身分制度によってのみ守られていたのではない。そもそ

も「士農工商」という階級制度も曖昧だった。大抵の地域では、大名の禄にあり付いた「正社員」が半分、それ以外の者が農工商、農村の者は主として農、都市住民は商工だった。

しかも大名家の盛衰によって大量の「浪人」が発生、寺子屋の教師やにわか医者などになった。彼らの経済的収入は都市の商工業者や農村の地主・農民にもはるかに及ばなかった。

◎現代に生きる相互扶助の制度

こうした江戸時代以来の自治・自主・自立の精神が、今に生かされているのが「保護司」の制度だ。原則として無給またはきわめて低い手当で、社会の秩序を保ち、刑余者を再生させようという仕組みは、日本以外ではほとんど定着していない。

日本でこの制度が成功したのは、全国至るところに「世話好きのおじさん、おばさん」がいるからだろう。

その保護司が今、高齢化の危機にある。5万人近くいる全国の保護司のほとんどが60歳以上、70歳を超える人も3割近くになっている。

日本の人口減少の原因とされる結婚年齢の上昇には、男女の仲を取り持つ世話好きのおじさん・おばさんの減少が挙げられている。今や保護司の世界にも同じ問題が入り込んでいるのだ。

「小さな善意」こそこの国の安心・安全・清潔・正確の基。保護司の高齢化は、そんな日本の「善意社会」を崩しかねない。

戦後70年を迎えた日本には、「今も続く善意の仕組み」が数多い。官民共に知恵を絞って、この素晴らしい善意社会を保たなければならない。

このことは、財政問題や公文書保存などよりもずっと大切だ、と思うのだが。

手帳「安全な国 日本」をプレゼント

成田空港ビジター・サービスセンター 訪日外国人観光客に



成田空港で配布される「安全手帳」

成田空港の第1ターミナル到着階にある Visitor Service Center (ビジター・サービスセンター) で、訪日外国人観光客に手帳型小冊子「安全な国 日本」をプレゼントしている。

同センターは、成田国際空港(株)=夏目誠社長=が、乗り入れの航空会社とともに、訪日客に日本での滞在を安心・快適に過ごしてもらおうと昨年10月にオープンした。日本国



内の観光情報だけでなく、旅行プランの作成から、宿泊・ツアー手配や各種チケット類の購入までを行っている。

成田空港は、ことし5月20日で開港40年を迎えた。イギリスのスカイトラックス社が3月に発表した「世界ベスト空港」2018年版で、成田空港は第11位。空港のセキュリティ手続き部門で第1位、ベストLCCターミナル部門で第2位、最も清潔な空港部門で第6位、ベスト・エアポート・スタッフサービス部門で第8位を占めている。

「世界ベスト空港」2018年版のトップは、シンガポールのチャンギ空港。3位に羽田国際空港、7位に中部国際空港セントレアが入っている。

アイデアマン・堺屋会長 会見 2018年版発行

アジア刑政財団 (ACPF) は、データでみる「安全な国 日本」Japan, How Safe? 2018年版を、ことし1月に発行、2月22日午後3時から堺屋太一会長が日本プレスセンターで記者会見をした=写真。

この手帳型小冊子(タテ15.5センチ、ヨコ9.5センチ、頒価500円)は、堺屋会長のアイデアで

作成し初版2015年版を同年7月に発刊した。

日本がいかに安全・安心・正確・清潔な国かを様々なデータで示したもの



で、発行部数も2万部を超え、隠れたベストセラーになった。

今回の改訂は、データを更新して、陳腐化を防ぐとともに、2020年東京五輪、その3カ月前の2020年4月に京都で開かれる कांग्रेस（国連犯罪防止会議）、さらには2025年大阪万博へ向けて、「犯罪なき繁栄」をスローガンにしている ACPF の存在意義を世界中に示そうという考えである。

記者会見には、北田幹直理事も堺屋会長の脇で対応した。司会は、吉田弘之事業部長がつとめた。



記者から「堺屋さんは、『油断』を書かれているが、今のお考えは」と質問があり、堺屋会長は「昔は油がないのが大変だったが、今は子どもができないのが問題である。次世代は宝です」と答える場面もあった。

講演会などで手帳使い「安全安心」PR



に参加する海外の刑事司法関係者は、「安全・安心・清潔・正確」な日本に驚きの声をあげる。「まるでディズニーランドみたい！」

堺屋会長が責任編集した小冊子「安全な国 日本」も好評で、講演会の資料として使われている。

7月9日には有田知徳審議役が札幌で1200人の聴衆に、「安全な国 日本」を解説した（詳報は、札幌支部だより31頁）。

山下輝年事務局長は、自らつくったスライドを使って講演している = 写真。

世界の「犯罪なき繁栄」が ACPF のキャッチフレーズである。財団の存在を広める意味でも、会員1人1人が「安全な国 日本」を訴えてもらいたいと思う。

訪日外国人観光客が急増している。日本政府観光局（JNTO、清野智理事長）によると、2017年は前年比19.3%増の2,869万1千人にのぼった。東京五輪、京都 कांग्रेस が開催される2020年は4000万人を目標にしている。

「安全な国 日本」を、世界中の人に売り込むチャンスである。

アジア
研の国
際研修

毎日新聞
企業人大学

「日本は安全、安心」

アジア刑政財団 山下さん語る

毎日新聞企業人大学は20日、千葉市美浜区ひび野2の「ホテルグリーントワー幕張」で6月講座を開き、刑事司法分野で国際協力に取り組むNGO「アジア刑政財団」理事兼専

務局長の元検事、山下輝年さん(61)が「日本の安全、来た、見た、分かった」と題して講演した「写真、犯罪認知件数などの統計の推移を紹介したほか、検察が起訴する際の判断基準などを説明し、「日本は安全、安心で清潔、正確な国」と強調した。(斎藤文太郎)

国連ウィーン本部でシキタメモリアル 世界から後輩駆け付け



敷田氏の思い出を語り合う各氏

2018年5月16日、国連ウィーン本部にて、故敷田稔前理事長（2017年9月12日逝去、85歳）のメモリアル・イベントが行われた。第27回犯罪防止刑事司法委員会（CCPCJ・通称コミッション、5月14日～18日）の開催に合わせ、ACPFとUNAFEIが共同で開いた。

ウィーンは敷田さんが1982年から4年余、国連犯罪防止刑事司法部長として勤務し、その間にイタリアで第7回ミラノ kongress を成功させている。

国連ビルの1階大広間に、ACPFが国連50年を記念して贈った日本画「鳳凰来儀」が飾られているが、吉田左源二画伯への発注から、作品のウィーンへの移送、設置の場所どりまで、敷田さんがすべてを取り仕切った。

敷田さんの自慢は、5年に1度開かれるコ

ングレスに連続9回参加したこと。「永久不滅のアンタッチャブル記録」といっていた。

午後1時半から開かれたシキタメモリアルには、昨年11月30日に東京の法曹会館（Lawyers Club）での偲ぶ会にも出席したエドワルド・ベテレさん（元UNODC条約局長、敷田さんの後任）をはじめ、コミッション・ kongress 仲間というより世界各国の後輩たちが駆け付けた。

様々なサイドイベントが同時に開催されるため、参加できなかった方もいたが、合計約40名が集まった。

吉田事業部長の司会で、各人が思い出を話した。「シキタセンセイがいなければ、今の私はなかった」など、偉大な先輩に敬意を払った。と同時に当財団に対する今後への期待が寄せられた。

日本からは千田恵介アジ研所長（現高松地検検事正）、山下輝年事務局長が英語でスピーチをしたが、「敷田先生は1970年の京都コンGRESは、事務方として一切を仕切った。それだけに50年ぶりの2020京都コンGRESは誰よりも見たかったに違いない。残念だ」などと語った。

他の主な参加者は以下の通り（敬称略）

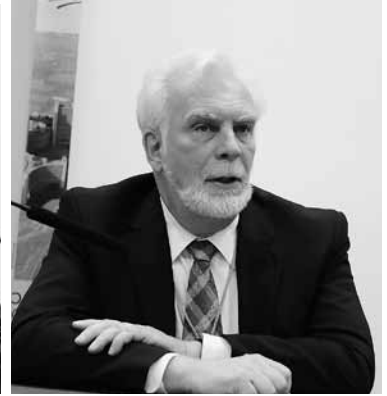
マッティ・ヨツェン（HEUNI 前所長）
 ▽イボン・ダンデュランド（カナダ ICCLR 刑事改革刑事司法政策国際センター・シニア アソシエイト）
 ▽ウイシット・ウイシットソラ・ア（タイ法務省事務次官）
 ▽金振煥（KIC 韓国刑事政策研究院長）
 ▽ギャリー・ヒル（セガ・サービス）
 ▽ヨランタ・レド ACPF 国連ウィーン駐在代表



ヒル氏



ウイシット氏



ダンデュランド氏



ペトレ氏



ヨツェン氏



レド氏

2020 京都コンGRES 4月開催正式に決定

ウィーンで開かれたこのコミッションの初日に、黒川弘務法務事務次官が第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コンGRES）の意義や重要性を訴える演説を行った。

1970年の第4回以来、50年ぶりのコンGRESで、UN Crime Congress Returns to Kyoto と題したサイドイベントも初日に開か

れ、アジ研の千田恵介所長（当時）らが「どうぞ京都においでください」と各国の刑事司法関係者に呼びかけた。

第14回京都コンGRESは、2020年4月20日（月）から27日（月）までの8日間と正式決定された。

第5回タイセミナー開催

事務局長 山下輝年 **三つの進化・深化を検証**



5回目を迎えたタイセミナーの会場

第5回タイセミナーが2018年2月12日バンコクのタイ法務研究所（TIJ = Thailand Institute of Justice）で開かれた。TIJと盤谷日本人商工会議所の協力で、120人を超える参加者があった。日本からは広島・横浜両支部の会員、本部役員が20人。

キティポン同研究所長（ACPF タイ理事長）の歓迎の挨拶のあと、5兆円を投資して開発を進める東部経済回廊（EEC）特区について特別講義があり、柿塚泰・泰国三菱重工社長ほか日本語ペラペラのタイ人司会者とパネルディスカッション。最後に ACPF を代表して北田幹直理事がお礼の挨拶をした。

このセミナーは、2013年に始まった。会員企業に役立つ情報発信のため、タイ ACPF が主催してきたが、そのリーダーシップをとってきたのはキティポン氏（UNAFEI 卒

業生・客員専門家）だ。タイ法曹界では「司法改革のチャンピオン」の異名を取る。

今回は三つのシンカ（進化・深化）があった。

その1 主催者の進化

今回から TIJ が主催者に加わった。TIJ は、2016年、国連の犯罪防止・刑事司法ネットワーク（PNI）メンバーとなった。UNAFEI が最古参なら、TIJ は新進気鋭である。女性受刑者の処遇改善（バンコク・ルールズ）や法の支配など様々な国際会議・国際セミナーを開催している。パチャラキティヤパ王女が関与する機関であり、ロゴのオレンジは王女の誕生日の色にちなんでいる。今後も「TIJ-タイ ACPF セミナー」として続くが、エネルギーに国際会議を企画・運営しているため、ACPF には心強い。

その2 議論の深化

今回のテーマは「東部経済回廊によるタイの競争力」。いわばタイ版経済特区であり、日本企業誘致が狙い。本音ベースのやり取りがなされたという意味で深化した。



東部経済回廊について説明する
ポジャーニー EEC 副事務局長

ポジャーニー EEC 副事務局長は、EEC への投資額見込み、スケジュール見通し（2018年7月頃に共同出資企業を公表、9月に契約、2023年に開業）、具体的な産業分野、出資企業への恩典制度などを説明したところ、政権が変わると方針が変わることはないかなどの質問があった。

パネルディスカッションでは、日系企業側が、タイの強みを残しながら他の分野を工夫して発展させていくべきである、タイ人の人材育成、とりわけ子女教育、バンコク以外の地域での人材の開発、マネジメント能力の養成が重要など率直な意見を述べた。タイ側も、



パネルディスカッション

既存産業も大事にしつつ、より高度に発展していきたいが、能力のあるタイ人は日系企業ではなく欧米企業に流れていってしまうなど

の意見が出された。

その3 企画の進化

これまではタイセミナー半日で、日本からは ACPF 幹部数名のみ。国内会員の参加増のため次のように4泊程度のツアー形式にした。①刑事司法機関視察を組み込む②支部・本部会員の参加を促す③日程を土日祝日に絡める④本部事務局が旅程をとりまとめる。

その結果、冒頭記載のとおり総勢20名が参加し、観光あり、歓迎ディナーあり、セミナーあり、視察ありと貴重な体験をした。特に、刑務所訪問・少年院訪問・UNODC訪問は、大きなインパクトをもたらした。その詳細は ACPF ウェブサイト「お知らせ」（2018. 3. 5）を是非ご覧下さい。

第6回 TIJ-タイ ACPF セミナーは2019年2月9日（土）～13日（水）の日程でツアー形式。今から日程を確保し、奮ってご参加を！今回の参加者は以下のとおり。

タイからは、キティポン TIJ 所長=写真、

 ウィシット法務次官、ポジャーニー東部経済回廊事務局副事務局長ほか、タイ工業省、デロイト・コンサルティング、三菱重工、タイ・テクロン社からも出席。

日本からは、ACPF の北田理事、山下事務局長、堤評議員、新庄審議役、安田審議役、吉田事業部長、横浜支部の相澤正雄氏など9名、広島支部の富村副支部長など5名計20名。

バンコク日本人商工会議所（JCC）の協力もあり、日系企業約100社が出席したほか、日本大使館から小林広報文化部長、永田書記官及び寺川書記官、UNODC バンコク事務所から松本氏（検察から派遣）が出席した。

セミナーに参加して

広島支部副支部長 富村 和光



歓迎のディナーでキティポン所長に挨拶する富村副支部長（左）

一行5人は、2月10日夕方にバンコク郊外のスワナプーム国際空港に到着。ホテルに荷物を降ろしてから、早速、タイ料理に舌鼓を打ち、翌日からの日程に備えて鋭気を養い、タイ名物のトゥク・トゥクに乗り、タイの街並みを拝見しながら、地元の新鮮で珍しい果物ドリアンやトロピカルフルーツを試食したり、夜店をぶらぶらと観光しました。

2日目は、エメラルド寺院、ワットポーなどの観光名所を見学した後、夜は、アジ研の研修生OBで、タイ ACPF 代表兼タイ王国法務研究所所長のキティポン博士らタイ王国の法務省関係者の皆さんから、心のこもった歓迎と懇親の場をご提供頂きました。

3日目は、本セミナーのメインイベントで

あるタイ ACPF 主催のタイ王国東部地域の経済特区における海外企業の誘致・進出に関するセミナーに参加。タイ王国の工業省の担当者から各種政策に関するご講演を賜った後、コーヒーブレイクを挟んで、工業省の担当者、現地に進出しておられる三菱重工業さん、海外企業誘致の実務に携わるコンサルタントさんらがタイ王国における海外企業誘致・進出の実情などをパネルディスカッション形式でお話しされ、より突っ込んだ実情などをお伺いすることができました。

最終日には、罪を犯した少年らが収容されて教育を受けているシリントン少年院、犯罪防止に関する諸課題の研究・政策の実施などを行う国連機関の

UNODC（国連薬物犯罪事務所）のバンコク事務所を視察しました。

シリントン少年院は、平成8年に我が国の



シリントン職業訓練センター

法務省大臣官房施設課の技術指導で建築されたバンコク郊外の少年矯正施設で、その建築様式は我が国の少年院と同様、明るく開放的

なものでした。当支部にとっても以前に書籍を寄贈したゆかり深い施設で、今回の施設視察の際には、以前に当支部主催の国際高官セミナー参加者との懇親会に参加されたタイ王国の法務省の女性の職員さんが、わざわざ駆け付け、施設の視察にご参加くださり、当支部の活動が我が国と海外との繋がりや醸成に役立っていることを改めて実感しました。

残念ながら当支部から寄贈した書籍は、後年、大水害に見舞われたために消失されたそうですが、収容されている少年らの教育のため、有益に活用されていた旨ご報告を受けるとともに、改めて当支部の好意に深い感謝の念を述べられていました。

一方、UNODC (United Nations Office on Drugs and Crime) は、規制薬物対策、テロ対策その他の犯罪対策に関連する諸課題の研究・施策の実施に取り組む国連機関。バン

コク事務所は東南アジアにおける地域統括事務所と位置付けられている施設。同事務所では、我が国の法務省から派遣中の松本剛検事から、UNODCが各国政府と連携・協力しながら取り組んでいる最近の研究・施策などの実情のご説明を頂くとともに、綺麗なオフィスをご案内頂き、国連の各国における刑事政策の推進に向けた取組みの一端を知る機会に恵まれました。

松本検事は、当支部の林谷事務局長の長年にわたる親友で、タイ滞在中、終始同行してくださいました。我が国から遠い異国の地で、久しぶりにお互いの懇親が深められた偶然の出会いにとっても感激したそうです。

僅か3泊4日の短い期間ではありましたが、ACPFの活動がお役に立っていることを実感するとともに、参加された皆さんとの懇親が深められた有意義な機会でした。

ト
ン
ブ
リ
女
子
刑
務
所



女子刑務所と裁判所を 視察して

横浜支部 相澤正雄

トンプリ女子刑務所 Thomburi Women's
Correctional Institution

ビデオ説明のあと、所内視察へ。携帯・お

金・カメラ・持ち物をロッカーに格納した。特に煙草は受刑者の羨望の的となるので持込厳禁である。

ここは刑期10年以下の女性を収容し、現在の在監数は1,214名。罪種別には、麻薬991名、窃盗163名、殺人5名、人身売買29名、その他26名。受刑者の8割強が麻薬関係で、20代と若い受刑者が多い。

彼女らの子どもが9名(男4名、女5名)いて、2名が妊娠している。同行した江野村恵子さんは、生後5か月の赤ちゃんを「この子には何の罪もない」と抱きしめていた。

われわれは、予め17項目の質問を用意した。過剰収容、刑務作業と報酬、問題受刑者への対処などなど。それぞれが立って質問し

た。

所内には「バンコク・ルールズ」の何条に基づき処遇すべしとの大きな掲示がある。

女性受刑者の処遇改善は、2010年12月の国連総会で採択されたが、それを「バンコク・ルールズ」と呼ぶ。タイの働きかけで、国際ルールがつけられたのだ。

同行者の感想文——。

「最初に感じたことは、これが刑務所なのかということ。緑に囲まれた大きな邸宅の様。物静かで、心地良い環境の中にあるのが刑務所だとは信じられない気持ちでした」(河合禮隆)

「教育のない者には教育を。大学まで門戸が開かれている。手芸・料理・パン焼き・タイ式マッサージ・園芸・美容技術など実践的職業訓練。早寝早起き・滋養ある食事の摂取・朝夕二回のシャワー・ヨガやキックボクシングなどの運動も取り入れている。音楽・美術・演劇・舞踊など積極的に取り入れ、図書館や育児室の充実にも腐心していた。考え抜かれた運営体制が功を奏してか、再犯率が一年間に一件というのも十分納得できました」(相澤裕子)

バンコク刑事裁判所 Criminal Court

タイ国では三審制を採用している。この裁判所では3年以上の懲役又は6万バーツ以

上の罰金刑について全国の事件や海外の事件を管轄する。

裁判所職員は71名。所長1名、副所長3名、人身売買部長1名、薬物事件部長1名。

裁判所の紹介ビデオが英語で放映された。ここで扱う事件は、年間11,000～12,000件。刑事訴訟事件の裁判は1年で終わるようにしている。罪種は薬物が8割を占める。

裁判所の入口には天秤の図柄、屋内の壁にJustice delayed is justice denied。「遅れた裁判は、裁判の拒否である」なる法諺が英語で書かれていた。

次に国際薬物事件の法廷を傍聴する。判事2名、検察官1名と書記1名、被告人の弁護士4人がいて、1人が検察側証人に訊問中であった。

被告人は傍聴席に裸足、足錠、被疑者服で最前列左側に着席していた。



キティボン所長(左)と相澤正雄氏



バンコク刑事裁判所

われわれは、被疑者と同じ傍聴席の右側に着席して裁判を10分ほど傍聴した。

その内に裁判長が裁判を一時休止してわれわれ視察団のために質問に応じるなど約5分ほどの質疑応答にまで便宜を図ってくれた。再び丁寧に一礼して法廷を出た。貴重な時間を訪問団にさいて下さった裁判所に感謝したい。

CPPAPと連携協力を確認 フィリピン・マニラで協議

2018年5月20日、マニラでACPFとCPPAPが協議し、今後の連携と協力について話し合った（CPPAPは、ACPFの海外協力団体。正式名称は、フィリピン犯罪防止実務家連盟、Crime Prevention Practitioners Association of the Philippines）。2018年5月、国連ウィーンで開催の刑事司法委員会（コミッション）に参加した5名のうち、山下事務局長と吉田事業部長が、帰途マニラを訪問し、CPPAPと協議した。



協議に参加した、右からキャパラス氏、山下事務局長、レオネス会長、コー副会長、吉田事業部長、ラクタオエン会員

CPPAPからの出席者は、セリア・レオネス会長（元国家警察委員会委員）、マニュエル・コー副会長（司法省保護局長）、ドナ・キャパラス財務部長（国家警察委員会犯罪防止地域調整局長）、マリア・ラクタオエン会員（国家警察委員会）の4名。

協議では、以下の2点に焦点を当て、議論した。

1. CPPAPのフィリピン・日本ーフウェイハウス運営の充実化策

CPPAPと友好協約を締結している名古屋支部の意向も踏まえ、2019年3月に、21日～24日の日程で、広くACPF会員の参加を得て、フィリピン・モンテンプルパ市のーフウェイハウス（PJHH）視察、意見交換。関係刑事司法機関訪問を実施すべく準備を進めることを決定した。（詳細はACPF

Website「お知らせ」ACPF特別企画「2019年3月フィリピン刑事施設視察に行こう！」を参照＝<http://www.acpf.org/>）

2. フィリピンに進出中の日本企業向けセミナーの開催

フィリピンの日本企業向けセミナー開催計画は、新規のプログラム。タイではすでに2013年から毎年度日本企業向けセミナーが開催され、2017年度は100社以上が参加、日本からも約20名のACPF会員が参加し、好評を博した。

フィリピンでも、同様のセミナーを開催するための準備方策が協議された。日本企業様に魅力あるテーマ選び、適任の講師の選択等準備を進めます。2019年の7月に第1回目のセミナーを開催できるように進めることを確認した。

トピックス 「敷田賞」がヨランタ・レドさんに

「敷田賞」の受賞者（二人目）に、アジア刑政財団の国連ウィーン駐在代表、ヨランタ・レドさんが決まった。

レドさんは、1986年から現在まで30年以上にわたり国連ウィーンでの会議（国連犯罪防止刑事司法委員会、国連麻薬委員会、国連組織犯罪防止条約締約国会議、国連腐敗防止条約締約国会議等）に財団代表として出席し、国連NGOとしてのアジア刑政財団の活動に多大なる貢献をしてきた。

本業は弁護士。夫のスラウォミール・レド氏はかつて国連で敷田稔前理事長の部下であり、レド夫妻と敷田夫妻は家族ぐるみの付き合いをしてきた。敷田英子夫人は、今回のレドさんの受賞をととても喜んでいる。

授賞式は、10月25日（木）明治記念館（東京都港区）で開く東京みなの会主催のアジ研



2018年5月16日、国連ウィーン本部で

研修参加者との意見交換・懇談会の席上を予定している。

レドさんは授賞式の日をはさんで1週間ほど日本に滞在予定だ。

トピックス 日本食ブームのバンコク

タイセミナーで訪れたバンコクは、日本食ブームだった。繁華街の新築ビルにフードコ



讃岐うどんの店も

ートがあり、すし、ソバ、かつ丼、天ぷら、お好み焼きなど和食の店が軒を連ねる。

定食の「大戸屋」が何店も。「日本ではうちの100%

子会社が店舗展開しています」と広島支部から参加の福山通運長谷川将之国際部長。

盤谷日本人商工会議所（会員1753社）の堤陽一事務局長によると、和食店はバンコクに1753店、タイ全体で2713店にのぼる（2016年5月）。急増しているのだ。



盤谷日本人商工会議所の
堤陽一事務局長

トピックス 赤根さんがICC裁判官に就任

元アジ研所長の赤根智子さん(ACPF 会員)が国際刑事裁判所(ICC、オランダ・ハーグ所在)の判事選挙で当選、3月に就任した。任期は9年。日本人のICC裁判官は3人目。

2002年に発足した世界初の常設国際刑事裁判所で、現在123か国が加盟(米国、ロシア、中国などの大国が未加盟)。戦争犯罪、人道に対する罪、ジェノサイド、侵略犯罪の4種類(国際社会で最も重大な犯罪とされるもの)のみを処罰する。

2017年の予算規模は、1億4160万ユーロ(約197億1000万円)。日本は29億2000万



円余を拠出している最大の拠出国である。

赤根さんは「ACPFのハーグ

ハーグの国際刑事裁判所



赤根智子さん

(私設)支部のようなものなので、どうぞおいでください。お待ちしております」といっている。

財団では、来年5月にウィーンで開かれる国連のコミッションに合わせウィーンとハーグを訪問するツアーを企画する予定だ(本部日より33ページ参照)

トピックス 堺屋会長が暮らしたビルが美術館に

東京・四谷三丁目に「美術愛住館」が3月17日に開館した。堺屋太一会長が20年間暮らしたビルを改装、3階までの展示室200㎡余りの小さな美術館だ。

オープニングは、夫人の洋画家・池口史子(ちかこ)展だった。8月22日から特別展「万国博覧会展」が開かれる。11月25日まで。

HPは、<http://aizumikan.com/>

地下鉄丸の内線四谷三丁目駅近くの「美術愛住館」





所長が交代しました！

Farewell to 千田前所長 & Welcome 瀬戸新所長 !!



千田前所長 コミッションアジ研サイドイベントにて

6月25日付けで、千田恵介（せんた けいすけ）前所長が高松地方検察庁検事正にご栄転となりました。千田前所長は、平成28年4月から約2年3か月間、アジ研の所長を務められました。

その間、千田前所長は、アジ研職員の大変頼りになる指導者として、自ら範を示しながら、プロフェッショナリズムとホスピタリティを追求した研修作りに尽力されました。また、アジ研の50年を超える歴史の中で、最大級のイベントの一つともいえる、府中市から昭島市へのアジ研施設の移転を成功裡に完遂させました。今年5月のコミッションでも、プレナリー（全体会議）での発言、アジ研サイドイベントの主催、ACPF主催サイドイベントの司会、法務省主催サイドイベントのパネリスト、敷田先生を偲ぶイベントでの発言など、多くの役割をこなし、大活躍でした。

千田前所長の豊富な国際経験等に伴う卓越した知見や人脈に基づく指導・支援を直接受けられなくなるのは大変残念で、ある種、心細くもありますが、2年余りにわたるご指導を糧に、瀬戸新所長の下で、アジ研職員一同、更にプロフェッショナリズムとホスピタリティを追求していきます。

千田前所長においては、高松の検察業務遂行もさることながら、瀬戸内のおいしい海の幸やうどん、その他ご当地の諸々をお楽しみであろうと思います。

千田さん、ありがとうございました。引き続き良き人生を！

同じく6月25日付け、千田前所長の新天地の高松と同じ四国、徳島地方検察庁検事正から来られる形で、瀬戸毅（せと たけし）新所長が就任されました。

瀬戸新所長は、法務省刑事局国際課、ジュ



瀬戸新所長
就任後アジ研施設で

ネーブの国連代表部勤務、アジ研勤務など、豊富な国際経験があります。中でも、平成19年から21年の間、今回と同じく、千田前所長から次長職を引き継ぐ形でアジ研次長を務められました。

瀬戸新所長は、アジ研次長時代、刑事司法における国際協力等における高い専門性と飾り気のない、大変親しみやすい人柄で、職員や研修参加者から絶大な信頼を集めていました。それから10年弱のパワーアップを経ての所長就任です。アジ研の歴史の中でやはり最大級のイベントとなるであろう2020年の京都コンgresにに向けた着実なるリーダーシップを職員一同期待しているところです。

Welcome 瀬戸さん！共に、アジ研ライフ

とコンgresを楽しみましょう！

以上、アジ研から千田前所長ご栄転と瀬戸新所長ご就任をお知らせしました。

瀬戸新所長からの挨拶については次号で掲載予定です。



アジ研次長時代 研修員お見送り



アジ研次長時代 セミナーの司会



アジ研次長時代 研修員と交流



本部支部「期成会」

大相撲夏場所観戦と
大盛況の交歓会



交歓会での記念撮影（右上は、期成会報英語版の表紙）

本部支部「期成会」（鈴木仁会長）は5月26日、アジ研の第169回国際研修参加者31人（海外16か国24人、日本7人）を両国国技館の大相撲夏場所14日目にお招きした。2007年からの恒例行事だ。

6月13日の閉講式に合わせ、期成会報英語版が発行された。帰国のお土産に、という配慮で、昭島市のアジ研で行われた閉講式後の歓送会で、鈴木会長からブラジルのホドリゴ連邦検事に手渡された。

歓送会では千田恵介アジ研所長の挨拶に続いて期成会の鈴木仁会長が乾杯の音頭をとったが、地元昭島市の白井伸介市長は「アジ研の移転で、わが昭島市は世界各国からお客さまを迎えることになった。こんなうれしいことはない」と、何度もガッツポーズを繰り返

した。

研修参加者を代表しての謝辞は、タイのニッチャン判事。千葉地検の福嶋慶彦検事が通訳したが、ニッチャン判事は最後に
素晴らしく咲く

紫陽花（あじさい）と友情と
と一句を披露して喝采を浴びた。

期成会からは事務局長役の狐崎麻男幹事と、両国第一ホテルでの交換会で通訳をつとめた鈴木会長の孫・隼さん（大学2年）も参加。研修参加者と交流を深めていた。

また、期成会の田久保健美副会長は、交流会の会場で撮影した写真をプリントして研修参加者全員に贈っており、それに対する感謝の言葉も聞かれた。

（期成会名誉顧問、評議員・堤 哲）



UNAFEIの旗を先頭に

大相撲に興味しんしん



スマホで写真撮影

交歓会での楽しい一コマ



会報英語版の贈呈



千田アジ研所長



鈴木期成会会長



司会の鈴木了さん
(右)と通訳の長男・隼さん



盛り上がる各国の研修参加者



乾杯と新庄審議役



ガッツポーズの
臼井伸介昭島市長



タイのニッチャン判事と
通訳の福嶋千葉地検検事



手締め



ディナークルーズで心温まる交流会

マリールージュ号の前で記念撮影



5月18日（金）、横浜支部会員・役員による報告会を平澤貞昭会長（横浜銀行特別顧問）、藤本真一横浜刑務所総務部長らが出席して横浜銀行本店会議室で行ったあと、恒例の横浜港ディナークルーズへ。

横浜支部には、昨年から今年にかけ、新たに4名の個人会員が加わった。今回、初参加の河合禮隆氏からは次のような感想文が寄せられた。

《2月のバンコク視察旅行、今回の国際研

修交流会に参加できたことは、大変貴重な経験です。特に東京音頭で参加者全員の心が一つとなって楽しむ事ができたことは素晴らしいことだと思います。私のテーブルの両隣にマリのシェイク



司会の大森参事

ク・サラ・サンガーレ検事とエジプトからのモハメッド・アフメド・ハビブ最高裁判所刑事部判事。私は現役時代のアメリカやエチオピアでの駐在経験を話しましたが、法律専門家でないので検事や裁判官の世界に入り込んで話ができないのが悔しかった。久しぶりの英会話で多少苦勞しましたが、マリのサンガーレ検事から「同席できて楽しいひと時を



横浜支部の幹部ら（左から3番目が平澤会長、右から3番目が藤本総務部長）

東京音頭を踊る錦右師匠と千葉元法相



過ごせた」と言われたことが私の心によい思い出として残りました》

さて、今年も ACPF の前総務部長・大森晶夫横浜支部参事が司会を執り、第 169 回国際研修参加者 31 名（海外 16 か国 24 名と日本人 7 名）、アジ研職員 6 名と JICA 職員 2 名を招待した。

ゲストは ACPF の堀内国宏会長顧問（元最高検検事）、千葉景子評議員（元法務大臣）、宮戸みつる藤沢市議、横浜少年鑑別所の馬島貴美首席専門官、神谷理沙子法務技官、ACPF 松田憲治総務部長、市川美鈴経理部長ら総勢 59 名になった。

まず堀内国宏氏が開会を宣言、横山佳夫横浜支部副会長（ACPF 本部理事）が歓迎の挨拶。二子石亮アジ研教官、宮戸藤沢市議が



堀内会長顧問から感謝状

挨拶をした。大森参事がラマダン期間中であることを付度して夕日の沈んだ時刻を確認し、千葉元法務大臣が乾杯の音頭をとった。

港の空は晴れ渡り、山下公園のバラは満開だ。午後 7 時から 2 時間のマリーヌルージュ号クルーズ。研修参加者らは豪華な食事と国内外の司法関係者との会話、横浜港の夜景をデッキに出て楽しんだ。

その後、恒例の「日舞扇乃会」花柳錦右師匠による日本舞踊「祝賀の舞」が披露され、次に海賀マキ、菊池幸子さんも加わって、東京音頭を全員で輪になって踊った。錦右師匠から研修参加者への記念品贈呈が行われ、長年にわたる日舞扇乃会会員の国際貢献に堀内国宏 ACPF 会長顧問から感謝状が手渡された。

最後にエジプト最高裁モハメッド・アフメド・ハビブ判事が東北厚生局麻薬取締部の天保怜厚生労働事務官の通訳でお礼の言葉を述べた。

あつという間の 2 時間で心温まる交流会となりました。関係各位に感謝申し上げます。

（幹事 小島喜芳）



タイのキティポン TIJ 所長（前列左から 2 人目）と記念撮影。後列左から相澤夫妻（裕子夫人は右から 2 人目）、川口さん、江野村夫妻、河合夫妻、練間夫妻

タイセミナーに 9 人参加

バンコクで 2 月に行われた 5 回目のタイセミナーに、横浜支部からは幹事の相澤正雄・裕子夫妻をはじめ 9 人が参加した。最高齢河合禮隆（84 歳）・登喜子夫妻、練間正（83 歳）・多恵子夫妻、江野村治朗（83 歳）・恵子夫妻と川口路子さん。25 ページの記事も参照ください。



大阪支部

支部定時総会並びに講演会 各メディアが報道



翌8日朝放送された支部総会のMBSニュース



平成 30 年 6 月 8 日付読売新聞



平成 30 年 6 月 8 日付産経新聞

大阪支部の平成 30 事業年度の定時総会を、6 月 7 日（木）午後 4 時から大阪国際交流センターで開催した。

冒頭、瀧賢太郎代表幹事（議長）が「大阪支部が設立 24 年目を迎えられたのも、会員の皆さんのお陰」とお礼を述べた。引き続き「国連アジア極東犯罪防止研修所（アジ研）への協力のみならず、友好協定を結んでいる

タイ王国等への支援も引き続き行いたい」と決意を述べた。

議案は、平成 29 年度事業報告・収支決算報告・平成 30 年度事業計画・収支予算（案）・役員等の委嘱報告を議長及び事務局の進行により、各議案について審議した結果、それぞれ原案通り可決承認された。

引き続き行われた講演会では、危機管理等



会場風景



講演する古市教授



瀧代表幹事



北川大阪地検検事正（中央）も参加

中締め挨拶をする
原清弁護士

懇親会風景



尼崎市職員のお笑いコンビ

の実情に詳しい金沢工業大学・教授、古市達郎氏が「企業の危機管理・テロ対策」を主なテーマで話された。

懇親会では、お笑い行政講座として、尼崎市役所職員、江上昇さん（元松竹芸能）と桂山智哉さん（元吉本興業）の二人が漫才とス

クリーンを使って行政講座を披露した。

会場には、多数の会員の方々や、マスコミ各社の報道記者も参加して盛会裡に閉会した。原清弁護士が中締めの挨拶をした。

（事務局長・柏岡 征和）

支部
だより

広島支部

アジ研第168回国際高官セミナー 参加者との意見交換・交流会



小倉桂子さんを真ん中に記念撮影

広島支部は、平成30年1月31日、リーガロイヤルホテル広島で、アジ研第168回国際高官セミナー参加者との意見交換・交流会を開催しました。

ブータン、ブラジル、タイなど海外13か国20名、国内7名ら総員31名の一行は、同日午後広島に着き、更生保護施設ウイズ広島を訪問された後、会場に到着されました。

交流会に先立ち、「被爆体験を語る」と題し、国内外で英語による被爆体験の語り部として活躍されている小倉桂子さんから被爆の体験、恒久平和への願いについてご講演を頂きました。

冒頭、小倉さんは、昨年秋、アメリカで、将来戦地に赴く可能性のある若い学生らに講演された際、「どうか最後の瞬間まで諦めることなく生きようとして欲しい」と訴えられ、学生らが涙したというエピソードを紹介され、海外からの参加者はもちろん、ご講演を拝聴した私たちも、目頭を熱くしながら、ヒロシマが受けた被爆の悲惨さ、小倉さんの恒久平和を願う想いに引き込まれました。



広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏



稲川検事長と
椋田支部長



交流会では、椋田昌夫支部長、稲川龍也広島高検検事長の挨拶の後、部谷俊雄副支部長代理の発声で乾杯し、セミナー参加者を囲んで懇親を深めました。

交流会の途中、「広島ジュニアマリンバアンサンブル」のちびっ子たちが「津軽じょんがら節」「日本の祭り」など日本の情緒溢れる曲などを元気いっぱい演奏され、研修参加者の皆さんも、故国の家族のことを思い出したのか、目を細めて楽しんでおられました。

その後、引率の教官から、今回の国際高官セミナーの概要が紹介された後、セミナー参加者が、一人一人、日本語で自己紹介をされ、片言の日本語はかえって親しみを生んで、会場は笑顔に包まれました。

この交流会は、当支部の恒例の行事となっていますが、各国の刑事司法機関で活躍されている方々と、片言の英語、身振り手振りでの交流は、支部会員にとっても貴重な機会です。今後とも多くの会員が参加して、より交流が深められるよう、事務局としても努めていきたいと思っております。ご協力をお願いします。

(広島支部事務局長 林谷浩二)

平成 29 年度 講演会・交流会

広島支部は、平成 29 年 10 月 30 日、リーガロイヤルホテル広島で、佐々木信彦（株）日本シークレット・サービス代表取締役・元警察庁警備局警備監理官）、古市達郎（日本安全保障・危機管理学会副理事長、金沢工業大学教授・元近畿公安調査局長）の両氏を迎え、法人・個人の会員・会友、広島高・地検職員、矯正職員などの参加を得て、講演会・交流会を開催しました。

佐々木信彦氏からは「国際商取引におけるリスク管理について」と題し、我が国をはじめ OECD 条約締約各国における外国公務員贈収賄事案の摘発の状況、それが企業に与える影響や、我が国の捜査機関における取り組み、その国際的評価などを講演頂きました。



古市達郎氏からは「テロの脅威に如何に対処すべきか」と題し、近年の国際テロ情勢の現状・推移、我が国の政府・企業における危機管理の意識の薄さ、各企業で情報の収集・分析に努め、それをテロ対策に活かしていく



講師の古市氏を囲んで

ことの重要性などを講演頂きました。

長年、警察・公安の第一線でご活躍された両氏の講演は、最新の国際的動向を踏まえたアップ・トゥ・デートなもので、それぞれの企業・個人がコンプライアンス・危機管理を図ることの重要性を認識させて頂けたもので、会員・会友の皆様からも、ご好評を賜りました。

引き続き開催された交流会では、新庄一郎・長井博美両審議役、吉田弘之事業部長、両講師を囲んで、広島の夜景を眺めながら、時間を忘れ、CS で敗退を強いられたカーブに対する叱咤激励などの会話が花が咲きました。

広島支部事務局では、会員・会友の皆様には有益な講演会・交流会となるよう引き続き尽力して参りますので、関係各位には、引き続き、ご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。（広島支部事務局長 林谷浩二）

タイセミナーに参加

タイ ACPF 主催のセミナーに参加するため、本年 2 月 10 日から 13 日まで、3 泊 4 日の日程でタイへ行ってきました。

広島支部からは、富村和光副支部長、事務局長の林谷浩二弁護士のほか、法人会員の福山通運の長谷川将之さん、鷺尾和也さん、豊国ホールディングス系列の豊国昭和起重機製作所から岸本毅さんが参加され、当支部担当審議役の新庄一郎氏と合計 6 名で、ACPF 本部、他支部の皆様とともに有意義な時間を過ごしました。今回は、開催のご案内が直前となったために十分な周知ができませんで



UNODC バンコク事務所前で

したが、今後同様の機会がありましたら周知の充実に努め、多くの皆様にご参加頂けるよう尽力致しますので、その際には奮ってご参加ください!!（関連記事 10 ページ参照）

（広島支部副支部長 富村和光）

支部

だより

名古屋支部

第26回支部役員会・総会開催

平成30年6月13日(水)名古屋市中区三の丸のKKRホテル名古屋で第26回支部役員会・総会を会長ほか15名、来賓として財団本部から山下輝年事務局長、名古屋高検から林真琴検事長、河瀬由美子次席検事及び名古屋地検から片岡弘検事正に出席いただき、開催した。

議案審議に先立ち、会長(代理：細野秀一中部電力(株)法務室長)から「昨年度、当名古屋支部は、9月にアジ研(国連アジア極東犯罪防止研修所)国際研修の研修参加者2名、インターン1名を当地にお招きし、意見交換会を通じて相互理解を深めることができました。また、同じく9月にフィリピン・日本ハーフウェイハウス運営に関する同意書の署名式を実施することもできました。当財団につきましては、公益目的事業の範囲が、犯罪の防止・治安の維持や、国際相互理解の促進を目的とする事業にも広がり、その果たす役割はさらに重要になるとともに、社会からの期待もますます

高まっているものと考えております。

今後とも、みなさまのご理解とご協力、本部のご指導をいただきながら、アジアの『犯罪なき繁栄』への貢献を目指して、より一層活発な活動を推進してまいりたいと存じますのでどうぞよろしくご厚意申し上げます」との挨拶があった。その後、下記議案について会長が議長となり、田中清隆・小関敏光両主幹からそれぞれの議案を説明、審議の結果、原案どおり可決承認された。

事務局から支部会員の獲得などについて事務連絡が行われた。

終了後、田中副会長の挨拶に続き、名古屋高検・林検事長の挨拶、名古屋地検・片岡検事正の乾杯の発声で、懇談会が開会され、和やかなうちに時間を過し、小関主幹の閉会を惜しみながらの挨拶で、散会となった。

記

議案 I 平成29年度事業報告

- ①第25回支部役員会・総会開催
- ②アジ研第167回国際研修との意見交換会



⑤山下ACPF事務局長の挨拶
⑥林名古屋高等検察庁検事長挨拶



小関主幹閉会の挨拶

懇談会風景



総会風景



開催

- ③フィリピン・日本ハーフウェイハウス運営に関する同意書の署名式
- ④名古屋大学大学院法学研究科修士・博士課程の外国人留学生 22 名（本国では裁判官・検察官・弁護士等）の刑事施設見学の支援
- ⑤刑事政策公開講演会
- ⑥平成 29 年版犯罪白書に関する説明会出席
- ⑦平成 29 年度支部実務担当者会議
- ⑧ C P P A P への活動支援（フィリピン・日本ハーフウェイハウス運営を含む）支援金 30 万円送金

議案Ⅱ 平成 29 年度収支決算報告

議案Ⅲ 平成 30 年度事業計画（案）

- ①フィリピン犯罪防止実務者連盟（C P P A P）との意見交換会
- ②第 26 回支部役員会・総会開催
- ③アジ研第 170 回国際研修員との意見交換会開催
- ④名古屋大学大学院法学研究科修士・博士課程の外国人留学生刑事施設見学の後援
- ⑤刑事政策公開講演会出席
- ⑥犯罪白書に関する説明会出席
- ⑦平成 30 年度支部実務担当者会議出席
- ⑧ C P P A P への活動支援（フィリピン・日本ハーフウェイハウス運営を含む）支援金 30 万円

議案Ⅳ 平成 30 年度予算

議案Ⅴ 役員等の推薦

- | | | |
|-----|-----------------|-------|
| 会長 | 中部電力(株)顧問 | 川口文夫 |
| 副会長 | 興和(株)社長 | 三輪芳弘 |
| 同 | テミス総合法律事務所弁護士 | |
| | | 田中清隆 |
| 主幹 | 名城法律事務所弁護士 | 小関敏光 |
| 同 | さくら国際特許法律事務所弁護士 | |
| | | 小川晶露 |
| 幹事 | 東邦ガス(株)社長 | 富成義郎 |
| 同 | 東海旅客鉄道(株)社長 | 金子 慎 |
| 同 | リンナイ(株)社長 | 内藤弘康 |
| 同 | (株)名古屋銀行頭取 | 藤原一郎 |
| 同 | (株)豊田自動織機 | (人選中) |
| 同 | アイシン精機(株)副社長 | 三矢 誠 |
| 同 | (株)デンソー相談役 | 深谷紘一 |
| 同 | (株)喜多八代表取締役 | 舟橋幸男 |
| 同 | 愛知県保護司会連合会長 | 福谷直正 |
| 同 | 愛知県更生保護事業連盟会長 | |
| | | 黒河 陽 |
| 同 | 愛知県更生保護女性連盟会長 | |
| | | 青山禧子 |
| 監事 | (株)丸福代表取締役 | 鈴木富三 |
| 参与 | 名古屋矯正管区管区長 | 松田 治 |
| 同 | 名古屋刑務所所長 | 景山城佳 |
| 同 | 名古屋拘置所所長 | 八代宏幸 |
| 同 | 瀬戸少年院院長 | 横澤宗彦 |
| 同 | 名古屋少年鑑別所所長 | 石黒裕子 |
| 同 | 名古屋保護観察所所長 | 杉山多恵 |
| 顧問 | 愛知県知事 | 大村秀章 |
| 同 | 名古屋市市長 | 河村たかし |
| 同 | 名古屋高検検事長 | 林 真琴 |
| 同 | 名古屋地検検事正 | 片岡 弘 |



本部支部「東京みのる会」

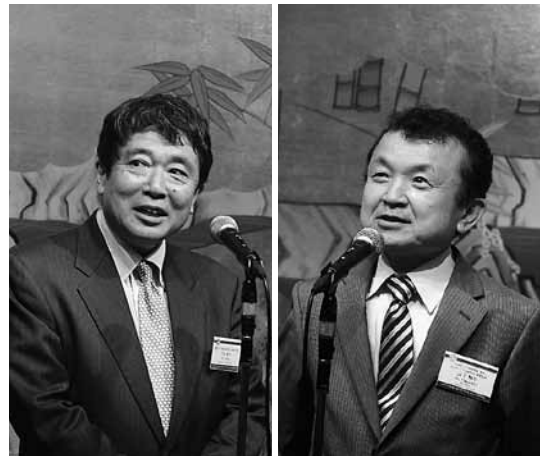
第 20 回 汚職防止研修参加者と意見交換会

記念撮影をする交換会参加者



東京みのる会（鈴木實会長）は2017年11月14日、アジ研の第20回汚職防止刑事司法支援研修（2017年11月1日～12月7日）の参加者28人らを明治記念館に招いて意見交換会を開いた。

歓迎の挨拶をする坪口監事



挨拶する④千田恵介アジ研所長
④山下輝年 ACPF 事務局長

謝辞を述べるシャフマ検事と通訳の平手判事



毎年恒例の行事で、まず東京みのる会を代表して坪口隆監事（五十鈴グループ副会長）が歓迎の挨拶。続いて千田恵介アジ研所長の挨拶のあと、山下輝年 ACPF 事務局長が乾杯の音頭をとった。

財団発行「安全な国 日本」にある「世界汚職認識度マップ」2016年版では、参加21か国で最上位は日本の20位。ついでブータンの27位。「清廉」はこの2か国で、あとは「腐敗している」。2ケタ台はブラジル79位、インドネシア90位、モルディブとスリランカ95位の4か国。残りは3ケタ台で、タイ101位、エジプト108位、タンザニア116位、ラオス123位、ネパール131位、ミャンマーとパプアニューギニア136位、バングラデシュ

記念品を受けるジンバブエのロサ検事



とケニア145位、タジキスタン151位、ジンバブエ154位、カンボジア156位、チャド159位、イラク166位、スーダン170位。それだけに研修参加者の「汚職撲滅」意識は高い。

交換会は、終始なごやかな雰囲気の中で行われ、研修参加者全員が日本語で自己紹介、参加者を代表してモルディブのマリアム・シャフマ検事が、札幌地裁の平手健太郎判事の通訳でサンクス・スピーチ。ACPF 横山佳夫理事が中締めをしてお開きとなった。

東京みのる会からは鈴木満、大熊重夫、宮澤正憲、今成艶子各会員が出席した。

（報告者：鈴木満）



盛り上がり、皆笑顔で！



中締めの挨拶をする横山理事



菅原氏 感動の再会

—ベトナム最高人民検察院次長検事来訪



チャン氏を囲んで記念撮影

札幌支部では、例年、秋に海外からの研修生の方々を御招待しての研修交流会、冬に札幌高検検事長の講演会を開催するのが定例の行事でしたが、今年は春先に、特別の嬉しい交流がありました。

3月15、16日の両日、ベトナム最高人民検察院チャン・コン・ファン次長検事が随



握手をする菅原氏（左）とチャン氏の方とともに来札、支部会員と交流しました。

実は、その支部会員の中に苫小牧の保護司会の会長である菅原正良氏がおり、チャンさんは25年近くも前の若かりし頃来道、菅原氏宅にホームステイをしていたとのことで、2人（そして菅原氏の奥様）にとっては感激



思い出話は尽きない

的な再会となりました。

チャン氏は、15日は市内刑事弁護士と交流をしたいとのことで札幌支部会長・吉岡征雄弁護士の彩北法律事務所を訪問されて意見交換し、かつ、その夜は支部会員と交流会、翌16日には苫小牧まで車を飛ばし菅原宅を訪問というスケジュールでした。

ACPFでの活動が、このようにタイムト

リップして、かつてのホームステイの若者とその家族と懐かしい感動的な再会の場まで作り出せたことは、とても素晴らしいことであったと思います。

2日間にわたるチャンさん一行との交流の一部を写した写真を添付させていただきます。

(札幌支部 田中燈一)

1200人に「安全な国 日本」

有田審議役が「安全・安心」を解説



「安全な国 日本」を手に解説する有田審議役

ACPF 札幌支部法人会員の宮坂建設工業(株) (本社帯広市、宮坂寿文社長) は、7月9日午後5時45分から、京王プラザホテル札幌の大ホールで、同支部の協賛により時局講演会を開いた。

講師は、元東京地検特捜部長、元日本プロ野球組織コミッショナーの熊崎勝彦氏。演題は「私の検事時代とその後を振り返って思うこと」。

時局講演会は、毎年恒例行事で、今回が13回目に当たる。聴衆は約1200人にのぼっ

熱心に有田氏の解説を聞く聴衆の皆さん



たが、席上、全員に、ACPFが1月に発行した「データでみる『安全な国 日本』」2018年版が配られ、熊崎氏の講演が始まる前に、財団本部審議役の有田知徳弁護士(元福岡高検検事長)が、同書に掲載されている窃盗や殺人事件、刑事施設の収容人員数等の統計数値を示しつつ、我が国が諸外国に比べて如何に安心安全な国であるかなどを約20分間にわたり解説した。

聴衆は、該当ページを開きながら興味深い面持ちで聴き入り、我が国の安全性に納得した様子であった。

「安全な国 日本」の初版(2015年版)が発行された際にも、当時財団の副理事長だった松尾邦弘氏(現会長顧問、元検事総長)が、同年の時局講演会で、聴衆全員に配布された同書に基づき、「日本の安全・安心」データブックの読み方を説明した経緯がある。

(財団本部審議役 三浦正晴)



第 26 回定時総会・懇親会開催



①支部総会の記念撮影
②ビールも出て和やかに

埼玉支部の平成 30 年事業年度の総会を 6 月 21 日（木）午後 5 時半から浦和ワシントンホテルで開催した。

総会議長は岡村稔会長、進行は事務局野口國男幹事、報告・説明は事務局志村、監査報告は土橋元孝監事が行った。来賓として、公益財団法人アジア刑政財団松田憲治総務部長、市川美鈴経理部長をお招きした。

議案は平成 29 年度事業報告・収支決算報告・監査報告、平成 30 年度事業計画・収支予算（案）、役員選任。

30 年度の事業計画は①7 月 27 日（金）さいたま商工会議所での講演会「変わる社会、変わる教育～人生百年時代を迎えて」（講師：宇都宮大学副学長 藤井佐知子先生）

② 8 月 17 日～ 24 日ケニア保護観察施設見学の海外研修

③ 9 月 11 日（火）アジ研国際研修参加者との交換会

④ 12 月に日本臨床心理士会前会長村瀬嘉代子先生をアドバイザーに迎えての講演が承認された。

岡村稔会長、長島裕会長代行、市川憲子副会長、榎本恭子副会長、竹内美美子副会長、土橋元孝監事、野口國男幹事、志村巖（幹事）は引き続き留任となった。

志村からはその他として「高倉健ラストインタビューズ：プレジデント社」に掲載されている、敷田稔前理事長と高倉健氏とのエピソードを紹介した。2 人は、福岡県の旧制東筑中学校の同級生である。

新入会員の佐藤恵氏、石川俊彦氏から自己紹介と今後の抱負を述べてもらった。

更生保護法人清心寮の白石寛司施設長から全員に、入所者が作成したカレンダーをプレゼントして頂いた。

総会後の懇親会では参加者が近況報告、和気あいあいの楽しいひと時を過ごした。

（埼玉支部幹事 敷田前理事長の旧制中学同級生 志村巖 高倉健の特集号の表紙）





会員・支部 のための 海外ツアー企画

ACPF では、来年、以下の海外旅行を企画しています。海外 ACPF の協力を得て、個人旅行では体験できないツアー満載。一人でも多くの御参加を。問い合わせは事務局吉田事業部長まで。

1 2019年2月に6回目のタイ・セミナーを開催

ACPF がタイ ACPF と TIJ (タイ法務研究所) との共催で開催しているタイ・セミナー。6回目となる来年は、2019年2月11日(月)午後を予定。テーマは日本企業向けに興味のあるものを選定中。

またセミナーに合わせ、少年院その他の司法機関訪問・視察などを組み込みます。

日程:2019年2月9日(土)~2月13日(水)の3泊5日、バンコク滞在。

オプション・ツアーでバンコク以外(チェンマイやプーケット)の刑事司法機関や観光をタイ ACPF 等で検討中。奮って御参加を!

2 2019年3月にフィリピンのハーフウェイハウス、刑務所等を視察訪問

ACPF 名古屋支部が友好協約を結んでいるフィリピン ACPF の特別協賛による視察旅行。

日程:2019年3月21日(木)から24日(日)まで3泊4日。マニラ滞在。費用約14万円。

旅行期間中は、マニラ郊外に位置するフィリピン・日本ハーフウェイハウス(ACPF 名古屋支部、名古屋西ライオンズクラブが建設・運営に協力)を訪問視察。1997年の設立からこれまで20年以上にわたり500人以上の受刑者の社会復帰を支援してきた。

併せて、刑務所など刑事司法関係の施設を訪問する。

詳細は ACPF ホームページ (<http://www.acpf.org/>) お知らせ(2018年6月28日付け)まで。

3 2019年5月に国連ウィーン本部(オーストリア)及び国際刑事裁判所(オランダ・ハーグ)を訪問

毎年5月にウィーンで開催される国連犯罪防止刑事司法委員会(通称コミッション)に国連 NGO である ACPF の会員として、参加見学。国連センター内1階大ホールに展示されている吉田左源二画伯の大作・ACPF 寄贈の「鳳凰来儀(世界に正義と平和が満ちるとき鳳凰が地上に舞い降りる)」の絵はまさに圧巻。併せて、ハーグの国際刑事裁判所を訪問し、2018年3月に裁判官に選出された赤根智子氏(元検事、元アジ研所長)の協力を得て、会員等の見聞を広める予定だ。5月中旬の1週間程度を予定している(一部参加も可能)。

4 2019年7月にフィリピンで日本企業向け ACPF セミナーを企画中。

すでにタイではおなじみの日本企業向け ACPF セミナー。フィリピンでも同様の企画を実現しようとフィリピン ACPF と協議中。



2018年2月のタイ・セミナー=写真=には日本から20名の ACPF 会員が参加。フィリピン・セミナーと併せて、刑事施設視察旅行も企画予定。3泊4日の予定。

第5回評議員会、第9回理事会を同時開催

6月20日(水)第5回評議員会及び第9回理事会が東京千代田区の法曹会館で初めて同時開催され、以下の決議事項等について審議、議決された。

●第5回評議員会審議事項

決議事項1 平成29年度事業報告及び決算について

決議事項2 評議員の再任について

決議事項3 理事の選任について

報告事項1 平成30年度事業計画及び収支予算について

報告事項2 千葉支部廃止について

●第9回理事会審議事項

決議事項1 代表理事等の選定について(会長等の選定)

決議事項2 支部設置運営規則の改正について

第5回評議員会では、平成29年度決算等を審議・議決の後、この評議員会終結の時をもって評議員及び理事の任期が満了することから、評議員及び理事を選任、続いて開催された第9回理事会で選任された理事の中から会長等を選任した。その結果、評議員は、全

副理事長就任のご挨拶 北田 幹直

このたびアジア刑政財団副理事長に就任いたしました。私は、1995年4月から2年間国連アジア極東犯罪防止研修所(アジ研)の次長として勤務し、また1999年4月から3年間アジ研の所長を務めたことがあり、その間、アジ研の様々な活動に対してアジア刑政財団から多大なご支援を頂きました。



今度は、アジ研時代のご支援に対する感謝の気持ちと返礼の思いを込めて、微力ながらアジア刑政財団のために尽力したいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

員が再任、また理事は、任期満了で退任された栢森新治氏、杉原弘泰氏、鈴木實氏の3名を除く12名が再任された。会長は堺屋太一氏、理事長は日野正晴氏、副理事長は樋渡利秋氏がそれぞれ再任され、また新たに副理事長に北田幹直氏が選任された。

なお、千葉支部は3月31日で廃止となった(第8回理事会で決議済)ことから支部設置運営規則を改正した。

刑事政策公開講演会を開催

2018年1月26日(金)午後3時から法務省地下大会議室で刑事政策公開講演会を開いた。アジ研、日本刑事政策研究会との三者共催で、米国ジョージタウン大学名誉教授のロイ・ゴッドソン博士が「法順守の文化とその促進のための諸方策」、続いて国連薬物・犯罪事務所犯罪防止・刑事司法担当オフィサーのルア・アサド女史が「刑事司法における kongress の役割と UNODC のエデュケーション・フォー・ジャスティスプロジェクト」について、講演をした。

kongress とは、5年に一度開かれる国連最大の犯罪防止・刑事司法会議で、第14回 kongress は、2020年に京都で開かれる。アサド女史は、すでに京都 kongress の準備にも携わっているという。



左からゴッドソン博士、アサド女史、日野理事長

支部実務担当者会議を開催

平成30年3月1日(木)午後2時半からアジ研の昭島庁舎国際会議場で平成29年度支部実務担当者会議を開催した。

会議の前に、前年10月に移転した新築の国際法務総合センターの内部施設を見て回った。同時通訳のブースがあった国際会議場をはじめ、研修参加者が宿泊する施設や談話室、5万冊の蔵書のある図書室など。

議題は、①平成30年度の事業計画及び収支予算②支部活動の充実・活発化を図るための方策③要望事項で、山下事務局長がパワーポイントを利用して説明した。公益事業積立

金を積極的に利用してほしいと要望があり、各支部からは会員の高齢化が共通の問題として指摘された。

個人会員の減少が著しいことからアジ研から研修生へACPF活動の紹介と会員加入についての勧誘案内についてお願いし



出席者全員で記念撮影(国際会議場において)

【前列】左から亀龍会・石橋利香、堀内国宏会長顧問、石原香代アジ研次長、日野正晴理事長、山下輝年事務局長、北田幹直理事(現副理事長)【後列】左から横浜支部・大森晶夫、埼玉支部・志村巖、名古屋支部・山口隼千、横浜支部・相澤正雄、新庄一郎審議役、むくげ会・柳永美、長野支部・山田清、広島支部・中津智恵美、期成会・狐崎麻男、日本橋会・川瀬達也、大阪支部・柏岡征和、同・高見信夫、栃木支部・高久均各氏

た。

会議出席者は、写真説明のほか、アジ研から湯川毅、平野望、渡邊宏之各教官、神保克彦首席、菊地佳美統括とACPF事務局。



国際会議場Bにて

審議役の有田知徳氏に瑞宝重光章

財団審議役の有田知徳氏(弁護士、元福岡高検検事長)＝写真＝が春の叙勲で、4月29日瑞宝重光章を受章した。



元検事総長の前田宏氏逝去

財団理事、元検事総長の前田宏氏＝写真＝が2017年12月25日逝去、91歳。法務事務次官、東京高検検事長から1988年3月検事総長。90年2月に退官後、当財団の理事。日本刑事政策研究会の会長をつとめた。



公益財団法人アジア刑政財団 賛助会員入会申込書

入会年月日		平成		年	月	日	
個人 会 員	氏 名	ふりがな					
	住 所	〒					
		TEL	()		FAX	()	
		E-mail					
	勤 務 先	勤務先名					
		部署・役職					
		〒					
		TEL	()		FAX	()	
送 付 先	※ご希望の送付先(会報等)に○をつけてください						
	勤務先			自宅			
法 人 会 員	会 社 名	ふりがな					
	代 表 者 名	ふりがな					
		役職・氏名					
	担 当 者 名	ふりがな					
		部 署 ・ 役 職			氏 名		
	住 所	〒					
		TEL	()		FAX	()	
E-mail							

【年会費】

<個人会員>

1口 10,000円(1口以上)

<法人会員>

1口 100,000円(1口以上)

公益財団法人アジア刑政財団本部事務局

〒196-0035

東京都昭島市もくせいの杜 2-1-18

国際法務総合センター

アジア研・法総研棟 2階

TEL : 042-543-7725 FAX : 042-543-7726

e-mail : info@acpf.org

文化功労者・絹谷幸二画伯の作品集 国際貢献カレンダー

Prosperity without Crime 「犯罪なき繁栄」を目指して!



蒼天富嶽

◎A2判 (420×594mm) 6枚物 (表紙別)

協賛金 1部1,500円 (送料含む)

[国連NGOトップカテゴリー]

アジア刑政財団 ACPF 国際貢献カレンダー2019

Asia Crime Prevention Foundation
The ACPF Calendar of International Contributions 2019

絹谷幸二 Koji KINUTANI
洋画家/日本芸術院会員/文化功労者



公益財団法人 アジア刑政財団
Asia Crime Prevention Foundation

1部、協賛金1,500円です。「名入りカレンダー」の注文にも応じます。
財団事務局 (Tel 042-543-7725、Fax 042-543-7726、E-mail: info@acpf.org)
へお申し込みください。

国連NGOトップカテゴリー 世界の「犯罪なき繁栄」をめざして

■ 公益財団法人
アジア刑政財団本部 事務局

〒196-0035 東京都昭島市もくせいの杜2-1-18
国際法務総合センターアジ研・法務研棟

TEL 042-543-7725 FAX 042-543-7726